

## 第1章 沿革と目的

### 1 沿革と目的

#### 1) 計画策定の沿革

大正13年に国の天然記念物に指定された「馬場大門のケヤキ並木（以下、ケヤキ並木という。）」は、約400年の歴史を持つ貴重な文化財です。府中市では、所有者の協力のもと、文化財保護法等の法令に基づき、様々なケヤキ並木の保護対策を行ってきました。平成2年3月には、「けやき並木景観整備基本計画」を策定し、ケヤキ並木の樹勢回復を目的とした土壌基盤の向上や沿道建築物の壁面後退などの景観保全事業も実施してきましたが、近年樹勢が衰えた大径木のケヤキが目立つなど、様々な課題も明らかになってきました。

そこで、府中市では、平成16年度の市制施行50周年を契機に、長期的な視点に立ったケヤキ並木の保護を目的とした保護対策事業に取り組むこととしました。平成16・17年度は、樹木の現況や衰退状況等の基礎的な調査と土壌や水環境等の立地環境等の調査からなるケヤキ並木の保存対策調査を行い、平成18年度は、その調査結果に基づき、保護管理計画の策定に向けた国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木保存管理計画策定委員会を設置し、平成19年3月に、委員会から提言書が出されました。本書は、その委員会からの提言をもとにまとめたものです。

表 1-1-1 ケヤキ並木に保護に関わる調査・保護等の実施状況

年代	会議・保護関連	調査関連
1950	○ 文化財専門委員会発足	○ 天然記念物 榊並木の調査 ○ 昭和31年現在 武蔵府中馬場大門けやき並木横観図説明書
1960	○ 天然記念物馬場大門榊並木保護対策協議会発足	
1970	○ 自然環境保全条例制定 ○ 自然環境市民会議発足（→保護策提言） ○ 専門家による調査委員会発足	○ 国天然記念物馬場大門ケヤキ並木の成立とその保護対策 ○ 国指定天然記念物馬場大門ケヤキ並木の維持管理報告書
1980	○ けやき並木景観保全推進会議	○ ケヤキ並木の維持管理に関する調査・研究 ○ けやき並木景観整備調査報告書
1990	○ けやき並木景観整備基本計画	○ 天然記念物府中けやき並木の樹勢回復
2000	○ 国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木保存対策調査検討委員会 ○ 国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木保存管理計画策定委員会 ○ 市文化財保護条例全部改正（文化財の保存及び活用に関する条例）	○ 平成16・17年度 国指定天然記念物「馬場大門のケヤキ」並木保存対策調査報告書 ○ 国指定天然記念物 馬場大門のケヤキ並木保護管理計画（提言書）

## 2) まちづくりのなかのケヤキ並木保護の位置づけ

ケヤキ並木の衰退に関わる要因は、経年的な推移を見ると、その土壌や雨水浸透などの道路空間内の問題にとどまらず、周辺環境の変化に大きな影響を受けていると考えられます。

一方、ケヤキ並木は府中市に武蔵国の国府が置かれていた歴史を象徴する歴史的資産であるとともに、近世には、産業分野で多摩地域をリードしてきた産業経済都市の顔・個性を表象する景観資源としての役割を担ってきたことから、府中市の中心市街地の軸に位置する文化的意味も持っています。

府中市の中心市街地は、ケヤキ並木を軸とする比較的コンパクトな範囲に形成され、個性的な景観と快適空間を提供しています。都市計画マスタープランにおいても、まちづくりの目標の最初に、「府中の歴史と文化を感じる個性豊かなまちづくり」が掲げられ、「大国魂神社に代表される府中の歴史と文化を感じる個性豊かなまち」づくりを図るとされているように、ケヤキ並木と大国魂神社は、『府中のまちづくりの中核的資源』と位置づけられています。

また、戦後の東京圏への人口集中と市街地の急激な拡大によって、まちの個性が急速に希薄化してきた多摩地域にあって、歴史と文化に裏づけられた府中のアイデンティティを象徴する貴重な財産であることを、関係する皆が認識する必要があります。

ケヤキ並木を保護・育成し、またその価値を活用していくためには、対策のあり方に関する検討対象範囲の広がり認識し、その認識を市民（国民）が広く共有することによって取り組みの範囲を広げ、連携関係を構築することが必要です。

このように考えると、多摩地域の成長とともに、歴史・文化的な意味や産業経済分野での高いポジショニングを持ってきた府中市の中心市街地の軸を形成しているケヤキ並木は、歴史・文化資源としての存在にとどまらず、府中市のアイデンティティを表象し、府中ならではの都市活動を生み出し、支えてきた貴重な歴史的資産です。また、市民生活分野において中心市街地の機能集積形成を支え、快適空間を提供することによる生活サポートシステム形成に果たしてきたともいえます。

このことからケヤキ並木の保護と活用の対策は、文化財としての視点だけでなく、まちづくり政策分野や産業経済政策分野に視野を広げ、総合的に取り組んでいくことが必要です。

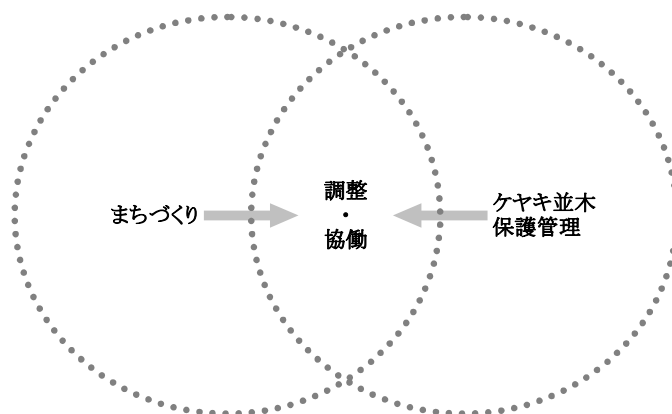


図 1-1-1 ケヤキ並木保護の進め方イメージ

### 3) 計画の目的

府中市におけるケヤキ並木の価値は、まちづくりの視点から見れば、中心市街地の街並み景観や、そこで展開される都市活動と密接不可分の関係にあります。ケヤキ並木の保護と活用は、それら施策を踏まえ、沿道を含む範囲を一体的な都市空間として、様々な保全のための整備を図ることによって、府中市の中心市街地の総合的な付加価値増進を図り、環境整備に寄与できるものです。

これまでの調査・検討の結果、現在のケヤキ並木は、将来を見通して考えると非常に憂慮すべき状況にあり、保護対策を早急に講じる必要があることがわかってきました。

ケヤキ並木を適切に保護し、未来へと確実に維持し続けていくためには、天然記念物としての価値について理解を深め、それらを適切に保護・管理していくための基本的な方針・方法を定めた、保護管理計画の策定と実行が必要です。

そこで、本計画は、「天然記念物としての馬場大門のケヤキ並木」の自然的・社会的状況を踏まえた上で、地域社会に調和したあるべき姿、目標となる姿を明らかにし、そのための具体的な保護・管理方法を定めることとしました。

## 2 委員会の設置

本計画の策定にあたっては、平成 18 年度に所有者、公募市民並びに学識経験者等から構成する「国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木保存管理計画策定委員会」を設置し、委員会から提言をいただきました。

### 1) 委員会の審議経過

#### 第 1 回 平成 18 年 8 月 18 日（府中市役所第二庁舎）

- (1) 正副議長選出と今後の進め方の審議
- (2) 2ヶ年保存対策調査からの課題と保護管理計画策定について

#### 第 2 回 平成 18 年 10 月 23 日（府中市役所本庁舎）

- (1) ケヤキ並木保護管理計画策定方針と保護管理計画（案）の内容審議

#### 第 3 回 平成 18 年 11 月 30 日（府中市役所第二庁舎）

- (1) ケヤキ並木保護管理計画（案）の内容審議
- (2) ケヤキ並木の状態目標等

#### 第 4 回 平成 19 年 1 月 16 日（府中市役所第二庁舎）

- (1) ケヤキ並木保護管理計画（案）の内容審議

#### 第 5 回 平成 19 年 2 月 28 日（ケヤキ並木現地視察）

- (1) 実地検分（現地にて個々の樹木の個別対策を検討）

#### 第 6 回 平成 19 年 3 月 27 日（府中市役所第二庁舎）

- (1) 保護管理計画（案）の全体構成についての確認、提言書刊行

## 2) 委員会の構成

表 1-2-1 保存管理計画策定委員会の構成

委員長	福嶋 司	東京農工大学 共生科学技術研究部 教授
副委員長	菅原 敬	首都大学東京 理学研究科 助教授
委員	井上 義勝	府中市商店街連合会 会長
	尾崎 貢	公募市民
	加藤 慎一	特定非営利活動法人 府中観光協会会長
	猿渡 昌盛	大國魂神社 宮司
	高崎 利夫	公募市民
	高橋 美智子	公募市民
	野澤 康	工学院大学 工学部 教授
	野口 武悟	公募市民
	堀 大才	特定非営利活動法人 樹木生態研究会 代表理事
助言	本間 暁	文化庁 文化財部 記念物課 天然記念物部門 文化財調査官
	原 眞麻子	東京都 教育庁 生涯学習スポーツ部 計画課 文化財調査担当係長 (学芸員)
	吉川 正人	東京農工大学 共生科学技術研究部 助手
	中村 武史	府中市郷土の森博物館 学芸員
事務局	府中市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課 文化財担当	
オブザーバー	府中市 地区整備推進本部	
コンサルタント	株式会社 愛植物設計事務所	

※肩書きは平成 18 年度当時のもの。